

覚えてください。まずは、あなたの大切な人のために¹⁾

釜薙 一正¹⁾、越前 茂宜¹⁾、立岡 伸章¹⁾

1. 公開方法、日程、構成

令和3年度弘前医療福祉大学短期大学部市民公開講座の開催については、コロナ禍ということもあり、当初は開催が危ぶまれていた。しかし昨年度も縮小して開催されたことから、市民を招いた従来の対面方式を取りやめ、Web上で動画を時限公開（令和3年10月1日から令和4年2月28日まで）する方式とした。

救急救命学科の本講座では、心肺蘇生を中心とした一次救命処置のやり方を市民にも受け入れやすいストーリー仕立てとし、一次救命処置特に心肺蘇生とAEDを中心に必要性また、その対処方法で構成した。

2. 概要

令和2年版消防白書¹⁾によると令和元年わが国では、年間約12万件的院外心肺停止が発生しており、その予後は経年的に改善傾向であるが、依然として低く公衆衛生上の課題となっている。²⁾ 心肺停止傷病者の予後改善のためには、救命の連鎖（Chain of Survival）すなわち、①心停止の予防、②心停止の早期認識と通報、③一次救命処置（心肺蘇生とAED）、④二次救命処置と心拍再開後の集中治療の4つの輪の連携が重要であり、その向上のためには疫学分析に基づいた対策が有用である。前記白書によると心肺停止の時点を目撃された地域住民は2万5,560人であり、このうち1か月後生存率は13.9%、1か月後の社会復帰率は9.0%となっている。その中で、バイスタンダー（そばに居合わせた人）により応急手当が行われた地域住民は1万4,789人であり、このうち1か月後の生存率17.3%、応急手当が行われなかった場合（9.3%）と比べて約1.9倍高い。また、1か月後社会復帰率についても応急手当が行われた場合には12.3%となっ

ており、応急手当が行われなかった場合（4.4%）と比べて約2.8倍高くなっている。バイスタンダーによる一次救命処置即ち心肺蘇生とAEDが極めて重要である事がわかる。（図1）²⁾ また、心肺停止からの経過時間と救命率との関係は救急隊・医師による処置前の市民バイスタンダーの積極的対応がとても重要であることを示している。（図2）^{2),3)}

このように、地域住民が突然倒れた時に、バイスタンダーが何らかの手を差し伸べたか如何によって、その方の予後は大きく変わってくる。胸骨圧迫であっても、電気ショックであっても何もせず救急隊によって医療機関へ搬送された場合の多くは悲しい結末を辿ることになる。そうならないためにも、日頃から「応急手当」を身に付け、必要なときには、救急隊が到着するまでの時間、多くの市民が救命の連鎖の2つ目の輪となり、多くの命を繋ぎ止めることのできる社会になることを切望する。

本講座では、この救命の連鎖をドラマ仕立ての動画としたことで、地域住民による心肺蘇生の実施とAEDの活用がいかに重要であるか、より分かり易く伝えることができたと考える。

参照

- 1) 日本医師会ホームページ
<https://www.med.or.jp/99/>
日本医師会「心肺蘇生普及」の標語。使用承諾を取得済み。
- 2) 公益財団法人日本AED財団ホームページ
<https://aedzaidan.jp/knowledge/index.html#anchor1>
- 3) 消防庁「令和2年版 救急救助の現況」
<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/c941509de3f85432709ea0d63bf23744756cd4a5.pdf>

1) 弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科（〒036-8104 青森県弘前市扇町2丁目5番地）
（令和3年10月1日～令和4年2月28日 本学HPに公開）

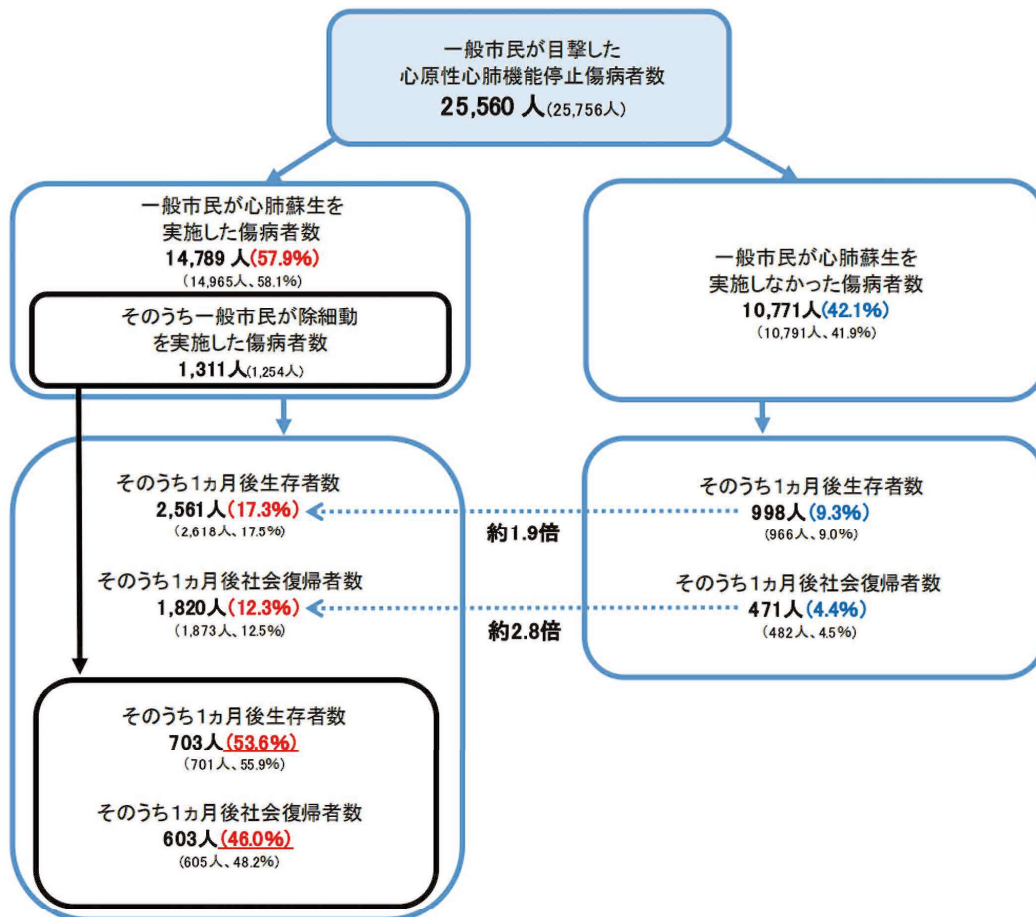


図1 一般市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者のうち、一般市民による心肺蘇生等実施の有無別の生存率(令和元年)(消防庁「令和2年版 救急救助の現況P91」)

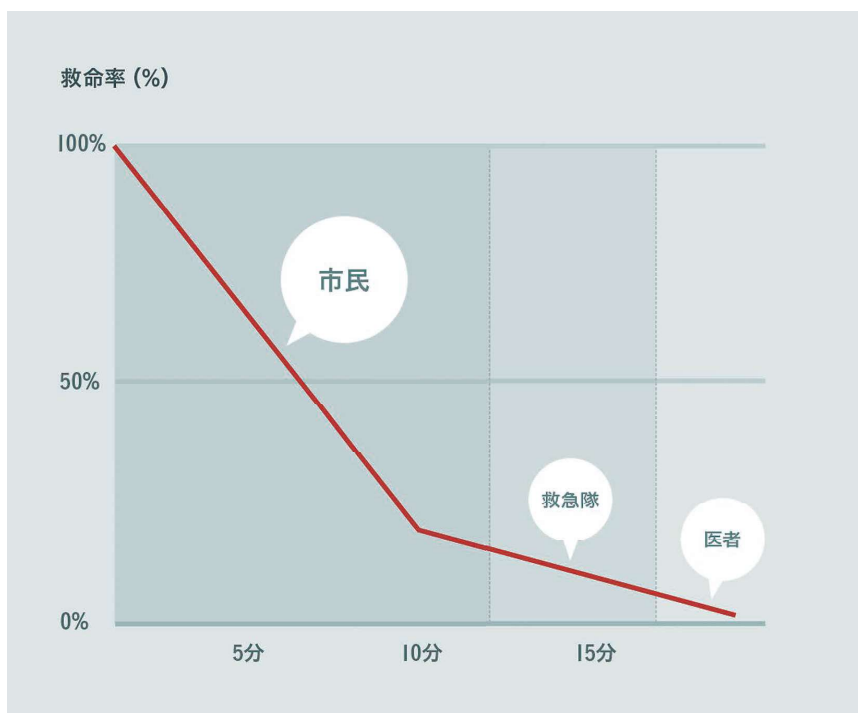


図2 救命の可能性と経過時間(公益財団法人日本AED財団ホームページより)